

審議会の概要	
名 称	令和7年度 第4回向日市地域福祉計画策定・推進委員会
日 時	令和7年12月22日（月）午後2時から午後3時10分まで
場 所	永守重信市民会館 2階 第2会議室
参 加 者	<p>(委員) 石井委員、橋本委員、山本委員、佐野委員、亀山委員、前坂委員、芦谷委員、村上委員、石田委員、麝嶋委員</p> <p>(幹事) 柴田、伊藤、大野、田口、藤野、訳合、熊上、里見</p> <p>(事務局) 岩尾、清水</p> <p>(オブザーバー) 向日市社会福祉協議会事務局長、総括次長</p>
議 長	石井委員長
傍 聴 人	1人
議 事	
1 開 会	
2 議 事	
(1) 計画案について	<p>事務局から計画案について説明。</p> <p>【主な意見等】</p> <p>(委 員) 今までの委員皆様のさまざまな意見が、まとまっている段階だと思う。カラーになると、とても見やすくなつた。はっきりと読みやすくなつた。</p> <p>(委 員) すごく見やすくなり、次を読もうと思う。夜、家の電気で見たときに、ブルーのところの文字が読みづらいので、工夫できないかと思った。</p> <p>(事務局) 見やすさ、読みやすさを意識してデザイン・レイアウト等を工夫していく。</p> <p>(委 員) 色合い、フォントの種類、文字の太さ等で読みやすさにかなり影響があると思う。</p> <p>(委 員) 計画の中で向日市らしさや、向日市のいいところがあれば教えてほしい。他市の人々にここが向日市の良いところですよ、と言える部分を教えてほしい。</p> <p>(事務局) 本市らしさという点での計画の中身はさまざまな部署から意見はあると思うが、他の自治体と比較したところでは、子供の数が多く、子育て世帯に住みやすい町になっているところかと思う。</p> <p>(事務局) 今、説明した部分に関連する合計特殊出生率等は17ページに記載がある。全国平均や京都府平均と比べても、向日市の数値が高い状況である。また18ページに、保育所の入所児童数の推移が掲載されているが、入所率は年々増加している。</p> <p>(事務局) 計画の大きな特徴は、社協の地域福祉活動計画と一体的に作成したところ</p>

である。市が、社協と市民の皆様を巻き込んでやっていると、市外の方には伝えていただければ良いかと思う。

(委員) 向日市の良さを人に伝えることができれば、新しい住民の方々に住んでもらうことができると思う。

(委員) 若い方が住みやすいということが数値で出ているようであれば、そこをアピールする形で、始めに子ども関連を持ってくるなどの工夫だけでも、読む方への印象は変わってくる。

(事務局) 今から文章の順番を入れ替えることは難しいが、概要版を作成するときに伝えたいところをわかりやすく伝わるような工夫を検討していく。

(委員) カラーになって色がついていると、どこからが見出しなのかがよくわかるので、読みやすくなったり。変更可能かわからないが、普段見慣れない言い回しがあるので、ふりがなや注釈があれば良いかと思うが、入れすぎるとごちゃごちゃしてくるので、バランスが非常に難しいと思う。全体の文章が難しければ、例えば相談窓口のページだけでもふりがな等があれば、より見やすくなるかと思う。

(事務局) 全体のバランスを見ながら必要なところには、ふりがなや注釈をいれることを検討していく。

(委員) 日本語以外の多言語の方に向けての概要版やチラシなど、日本語の理解が難しい方に計画のことを知っていただくことについて、検討いただいても良いと思う。

(事務局) 多言語で正しく伝えることは簡単ではないので、今回の計画で対応することは難しいが、将来的な課題の一つとして認識している。

(委員) 高齢者の自殺に関するところで、70～79歳まで同居人ありの自殺者が多いというデータが出ている。自殺対策強化月間や自殺予防週間に周知するという取組は書かれているが、はたちの集いでの若年層向けの施策に加えて、高齢者に対しての具体的な活動等があれば、より良いかと思う。

(事務局) 高齢者の自殺が多いというデータが数字として出ているので、このデータをしっかりと認識しながら、高齢者への啓発的な部分の取組について検討ていきたい。

(委員) 今までの委員会での意見が反映されて、防災や虐待について、非常にわかりやすくまとまっている。市、社協の取組や連携がわかりやすく表示されているので、良いと思う。それぞれの立場でこの計画を周知していかなければ良いと思った。

(事務局) 市だけでなく様々な機関やボランティア団体の方々にも、この計画をいろいろな方法で周知していただければと思う。

(委員) 前回の会議のときに、ボランティアグループの方々にも、この計画のこと

を知ってもらい、いろいろな相談窓口があることを知っていただくことが良いのではという意見があり、すごく良いと思った。社会福祉協議会の方々はボランティアグループの方や、地域福祉活動に参加している方との接点が多いので、完成した計画書をみんなで読むなど、あまり堅苦しくない程度にやっていただくのが良いと感じた。

(委員) 6ページに国等の動向があるが、一覧表のような形になっているのでわかりやすくて良いと思った。第3章の白丸について、文字の下に空白があるのが少し気になる。なにも入らないなら、文字を中心にする方が良いと思う。

(事務局) 空白部分については、その項目に合うイラストや写真を掲載する予定で、全体のレイアウトを見ながら調整していく。

(事務局) 少し前の発言について誤解を招かないように、念のためお伝えするが、子どもの数については8ページの出生数によると、令和5年から令和6年にかけて若干減少している。先ほどの発言にあった17ページの合計特殊出生率は、ひとりの女性が一生涯に何人の子どもを産むかという数値なので、子どもの数が増えているというのは、今の状況とは少し違うが、向日市にいる15歳から49歳までの女性は、たくさん子供を出産しているという状況である。

(委員) 色が入ると、とても見やすくなった。ブルーがいくつか使われているが、薄いところを濃くしてもらうと、字をしっかり読むことができると思う。

(委員) 社協の27から29ページのところは、ブルーが少ないとと思った。そこまではブルーが多かったので、ここになんとかブルーは入らないか。

(事務局) ご意見いただいた見やすさの点について、市と意見を交えながら、検討していく。字だけのページなので、難しいところもあるが、項目のところを白抜き数字にするなど市と検討していく。

(委員) 先日、向日市に障害者協会があることを初めて知ったケアマネジャーから連絡があり、身体障害者協会の活動内容等についての問合せがあった。向日市に障害者協会があることをほとんどの人が知らない。ケアマネジャーはいろいろな利用者と接点があるので、ケアマネジャーと連携して利用者に協会のことを案内してもらえた良好な印象だった。

障がい者の中には、福祉会館での活動に行くまでの移動手段がない、福祉会館のスロープがきついので行きにくい、という意見がある。

(事務局) 団体の紹介の件は、冊子を作成しPRをしている。ケアマネジャーを通じての案内については、検討していく。

(委員) 社会福祉協議会として、先ほど事務局が説明した障がい者の手引きを配ったり、この計画を活用して利用者に案内していくよう努める。

(委員) ケアマネジャーは介護保険だけではなく、地域の活動をしている方たちと

連携してケアプランを作るので、2か月に1回ケアマネジャーが集まる会議で、完成した計画を読み合わせする等はできると思った。地域をつなげていく役割としてケアマネジャーも担っている部分があると思った。

(委員) すばらしい計画だと思うが、実際活用する教育というか、誰が活用するのかが見えない部分がある。どの団体に教育していくとか、具体的なイメージを知りたい。

(事務局) 市としては、この計画を基に各課が同じ方向を向いて、各事業をしっかりと取り組んで行くためのひとつの指標になるので、市の取組としては、この計画を基に事業を進めていく。

(委員) 各団体に計画の内容を説明に来ていただくとか、一般市民に対するPRができる部分があると思う。

(事務局) 老人クラブを所管している高齢介護課としては団体から、こういう説明をしてほしい等の要望があれば、対応していこうと思う。所管課分以外についても、こういったものがありますなどの案内をしていけるよう努める。

(事務局) 計画を作ることが目的ではないので、いかに周知してそれぞれの取組につなげていくかが、行政や社会福祉協議会の責務だと思う。社会福祉協議会については、もちろんホームページで周知をするが、例えばボランティア関連の集まりや地区社協の会議を開催しているので、概要版などを用いてそういう機会を活用していきたい。市としてはもちろん全体的に周知を図っていきたいところかと思うが、全部を一度に見ることは難しいと思うので、何回かに分けて部分的に出していくことも、ひとつ的方法である。あらゆるチャンネルを使って周知できる方法を考えていきたい。

(委員) 計画を作成することについて、例えば、旅行の計画を立てるときに、計画している段階が1番うきうきしているが、実際には立てた計画をどのように遂行して、どう成果を上げていくのかが大事であるということを委員の皆様の意見を聞いて再確認した。

以前も発言したかもしれないが、福祉や地域福祉という言葉のイメージからは、困っている人が何か助けてもらうための施策やサービスというイメージがある。こんな困りごとをもっている方がいることを、地域の皆様に知っていただいて、これなら何かお手伝いできるかもしれないというところから、活動につながるように、地域の皆様にも気づいていただいて、その参加の機会を作っていくことも重要だと思う。福祉はそこで終わらず、困っている方だけのものが福祉ではなく、一人一人の生き方や生きがい、生きざまを大事にしていく、お互いが大事にしていく、望みやイメージを持ちながら、実現するためにはどういうような関わりが地域の中で作れたらいいか、あるいはどういった助け合いがうまくできればいいか、という

ところが大事。困りごとを抱えた方だけのものではないけれども、困りごとを抱えている人が地域にいらっしゃることも知られていない状況で、そこを知っていただくための計画でもあると思う。

窓口に連絡すると、私でもボランティアとして参加できるとか、私でもこの情報共有・情報の橋渡しができるということを知ってもらい、その次に、地域の皆さんのがこの向日市の中で暮らしく暮らしていくには、こんなところに繋がっていくとより良いというように、この計画が段階的に地域の皆さんに浸透していくべきと思った。

一遍に皆さんに知っていただくのは難しいかもしれないが、少しづつこの向日市の状況を知っていただき、みんなで何ができるかと考えていただき、仲間を増やしていただきながら、福祉には縁がないと思っている方にも、一緒に福祉のことを考えていただくようになれば良いと思う。この先にどういう取組を計画していくのか、という今後のプロセスも大事かと思う。

(委員) この計画はどこまで配布される予定か。完成して、役所内で見るだけなのか、各区事務所まで対応するのか。どの程度まで一般市民にPRするのか。例えば各ボランティア団体に配布するとか。こんな立派な計画があるのなら、みなさん活用された方が良いと思う。

(事務局) まずは市のホームページに完成した計画を掲載する。各連合自治会や社会福祉協議会や市の情報公開コーナー等にも配置する予定である。

(委員) 53ページの(2)さまざまな困難を抱えるひとへの支援の推進、市の取組の一番下の、高齢者等の買い物困難者への支援など、孤立防止対策の実施に努めます。とあるが、これはどういうことをイメージされたか。自分的に考えてみたところ、例えば、運転免許の自主返納した方にちょっとメリットがあったり、バスのルートを考えたり、介護保険での買い物できない人のサポート等をイメージしたが、このイメージで良いか。

生協を地域の共同購入で買われている人の中に若い方がいて、届いた商品の仕分けをしてくれていたが、その方の仕事が忙しくなり、その仕分け作業ができなくなり共同購入をやめたいという事態になった。しかし、地域の高齢者はその共同購入に頼っていたので、それを担ってくれる地域の人があれば継続できたと思った。

(事務局) 買い物困難者については、高齢者の課題として認識している部分ではあるが、具体策については、何が1番良い形なのか、向日市に合っているのかを皆様と共有しながら今後検討していきたい。

(委員) 前回会議で計画をどのように評価していくのかという部分で、会議録にはなかったが、表彰などがあれば良いという話をした。

表彰や実践例をどれだけ市民と共有できるのかなと思うので、まず今発

言があった買い物にしても、どのように実施してこの地域ではこういった工夫をしたと情報共有できれば、その他の地域の方で真似してみようと思う方も絶対出てくる。例えばボランティアでも、こういうボランティアしているという成功例があり、それがいろいろな場でアピールされていれば他の方々にも良い影響があると思う。

表彰とまでは言わないが、成功例を共有し、実施している部分を繰り返しアピールしていくべき評価に繋がると思う。

ここにマーケティングがあるからうちの会社もこれやってみようという会社が出てくるかもしれない、その辺のアピールをどのように工夫して実践していくのかを検討してもらいたい。

(事務局) 参考となる好事例を他の団体等に共有していくのは、非常に有意義と考えるので参考にしていく。

(委員) 各地域や現場の皆様が工夫しながら、何とか解決したいという思いの中でいろいろと取り組みされていると思うが、それを網羅的に把握していくことは、すごく大変だと思う。1人でとか、この担当部局だけでとか、というのは本当に難しい。

いろいろな会議や、人が集まる場で情報をできる限り皆様で共有しながら、それを自分の活動に活かしていくことが重要。自分がそんな大したことを行っている意識はない中でやっている活動が、他の地域から、ぜひ真似したいというようにお声掛けいただくことがあるかもしれない。

成功事例だけでなく、うまくいかずにみんなで工夫してこのように変えましたというような、いろいろな体験談を、皆様に知っていただくという機会がすごく大事だと思った。

(委員) 計画とは直接関係ないが、今日の京都新聞に社協のラーメンの食堂が載っていた。子ども食堂やいろいろなお店の人が協力しているところがあり、それを続けることはすごいと思った。今、民生委員が75歳以上の人一人暮らしの高齢者に、年4回通信いどばたを配布している。その紙面の中にレシピが1つある。自分で作って食べるということを、高齢者だけでなく、中学生や高校生も、やっていかないといけないと思う。将来的に食べるということはすごく大事だと思う。向日市食生活改善推進員協議会の方が簡単においしく作れるレシピを作成しているので、中学生や高校生、一人暮らしの大学生等が目につくような仕組みがあれば、その人たちの食生活は将来豊かになると思う。

(委員) 例えば高齢者の方にすごくプラスになるような情報は、障害がある方にも子供たちにとってもプラスになるということは多いと思う。だからこそ、縦割りではなく横串を刺すような地域福祉計画が必要になってきている背景

がある。本当に有効な情報をみんなで共有できるようなところも含めて、この計画が活用されると良いと思う。

(事務局) 月1回毎月最終日曜日に生活困窮者を対象にした無償の食堂事業に取り組んでいる。前回はラーメンを提供する団体に来てもらい、80から90杯ほど提供した。

普段生活に困窮されている方は、食生活が乱れがちになる。そういった中、少し調理と一緒にやってみて、こんなに安い食材でおいしいものが食べられるということを実感してもらう取組を、実施しようと考えている。この事業は生活に困窮されている方を対象にした取組だが、今後、高齢者や障がい者へと対象者が広げていければ良いと思った。

3 閉会